

【全校】わかたけ祭 閉会式

5月26日（月）に、わかたけ祭の閉会式を行いました。
生徒会長からは、次のような言葉がありました。

わかたけ祭に向けて、競技の練習、事前の取組など、みんなでたくさんのことを積み重ねてきました。思うようにいかないこともあったと思います。それでもやり切った。だから、今、胸を張って「いい わかたけ祭だった。」と言えます。また、私自身、当日までの行動に自信をもって頑張ったと言えます。だからこそ、わかたけ祭を通して、達成感を強く感じたり、自分の成長につながったと感じたりしています。

でも、大切なのはここからです。わかたけ祭の経験を、どのようにして、日常に生かすか。例えば、わかたけ祭当日の応援のように、友達にもっと声をかけてみる。自分の役割を果たすことを大切にしてみる。そういう小さな一歩を、日常で行うことで、きっと学校の雰囲気も、自分の気持ちも少しずつ変わっていくと思います。

「わかたけ祭、楽しかったね。」で終わらずに、わかたけ祭みたいに、活気や思いやりにあふれた毎日をつくっていきましょう。みんなで作った最高の1日を誇りに、また明日から一歩ずつ日常を高めていきましょう。これからの日常が勝負だと思います。こだわってきた事を、わかたけ祭で終わらせますか？

校長先生からは、次のような話がありました。

勝負には、勝敗はつきものです。勝った団もあれば負けてしまった団があるのも当たり前です。

大切なことは、目の前の結果を受け止めて、自分たちの今日までの取組を見つめてみることです。何がどうしてできたのか。何がどうしてできなかったのか。どんな結果にも理由があります。自分たちの得たものや足りなかったものが見つけられた時、明日からの自分たちが目指すべきものがはっきりするのです。

勝つために一生懸命みんなで考えた事実、仲間と共に真剣にぶつかり合った事実、3年生の人たちが同じ団の下級生のためにアドバイスをした事実、仲間に応えることができた事実、応えられなかった事実。

わかたけ祭当日も含めた今日までの取組をしっかり見つめ、みなさん一人一人が心を一つにして、学級目標の達成に向けて自分の力を発揮していくことを期待しています。

優勝は桃団でしたが、今後の成長の可能性は、どの団も無限にあります。どんな授業をめざすのか、どんな掃除をめざすのか、意識を高めていく生徒の成長が楽しみになりました。

